世界社会主義合衆国樹立をめざし　万国の労働者団結せよ！　全世界に新しい共産党を組織せよ！

昭和44年6月24日
第三種郵便物認可

週刊 世界革命

1978年 4月3日 号外

日本革命的共産主義者同盟（第四インターナショナル日本支部）中央機関紙　1部10円

発行所 新時代社 東京都港区芝5—13—17 編集・発行人 山口 明
電話 (03)451—2818 振替口座 東京 57…

関西支社（関西新時代社） 大阪市北区西天満6—9—8 石原ビル302号 電話 (06)315—7251 振替口座 大阪308136

九州支社（九州新時代社） 福岡市中央区… 私書箱98 電話 (092)741—4593

東北支社（永統社） 仙台市本町2—7—13 遠藤建業ビル308 電話 (0222)23—5359

《購読料——新時代社直送》 1部 三ヵ月2000円 半年4000円 3部以上は送料当社負担（密封1部 半年5200円）

声明

この勝利は人民の勝利である「三里塚空港」に今こそとどめを

日本革命的共産主義者同盟（第四インターナショナル日本支部）中央委員会政治局

1

日本人民の皆さん。

いま北総の緑の大地には、春の暖かな微風が吹きわたり、澄み切った青い空が広がっています。四月二日から飛ぶはずであった国際便ジェット機は、影も見せません。開港のスケジュールは大幅に遅れ、また見通しもたたない状況です。

三里塚の豊かな農耕放牧地帯を、騒音と排ガスで汚し、先祖から受けつぎ守り育ててきた農民達の生命よりも大切な農地を暴力で奪いとることによって、無理矢理に押し通そうとした福田政府の「年度内開港」は、ついにうちくだかれました。権力者の野望は挫折し、人民の大義が勝ったのです。

これほど、すばらしいことがあるでしょうか。日本人民のたたかいの歴史のなかで、これほど見事な勝利があったでしょうか。

皆さん、ともに肩を抱き、腕をとりあって、この勝利を喜びあいたいと思います。

2

三月二十六日、第四インターナショナルの旗のもとにたたかう青年共闘の戦士達を先頭とする部隊は、午後一時、空港の心臓であり頭脳である管制塔に突入し、占拠し、その設備を完全に破壊しました。青年戦士達の深い確信と勇気、反対同盟の農民達のねばり強く、また烈しい闘魂、そして日本全国に広がるたたかう人民の団結、この三つが結びついた力の前に、一万四千人の機動隊の壁はもろくもうち破られ、空港の中枢は完全に粉砕されたのです。管制塔にひるがえった旗は、全人民の真紅の心です。管制機器にふり下ろされたハンマーは、人民の鉄槌です。管制塔をうち壊した力は人民の力です。この勝利は、国家権力にたいする人民の勝利です。

福田内閣は、いまやろうばいの極にあります。資本主義経済の破局のなかで、すべての犠牲を働く者に背負わせ、その生活をふみにじることによって生きのびようとする一握りの独占資本家の利益しか代表しない福田政府は、その公約や見通しが次々に破産し、唯一の、最後の「目玉商品」を三里塚空港の「年度内開港」にかけたのでした。全世界の航空関係者や、日本の外務省、運輸省のなかに、この空港が恐るべき欠陥空港であるという認識は相当広がっていました。だが福田にとって、自分の政治生命がなによりも大事なのであり、そのためには技術上の問題はもちろん、反対同盟と全人民の意志などはじめから無視して、なりふりかまわぬ「開港」にこぎつける必要があったのです。

それには、有無をいわさぬ権力装置、一万四千の機動隊があれば十分だと信じ込んでいたのです。

福田の賭けは敗れました。このうえなくみじめな敗北を、福田は味わったのです。管制塔をうちくだいた人民の鉄槌は、また同時に、福田内閣の背骨をたたき折ったのです。

福田はいま、「夜も眠れない」とぼやいているそうです。われわれは、言ってやりましょう。「そうだ、お前にはもう眠れる夜はやって来ない。なぜなら、人民の夜明けが始まっているからだ」

3

三月二十六日の人民の勝利は、全世界に伝えられました。福田政府にたいする決定的な不信が、世界中に広がっています。日本政府の「国際的威信」は、もはや完全に地におちたのです。

政府と空港公団は、管制塔の修復に大わらわです。なんとか開港のめどをつけようと必死です。だが、たとえ彼らが無理矢理にスケジュールを決めたとしても、誰が信じるでしょうか。今まで、開港予定は十数回も決められ、ことごとく破産してきました。三月三十日開港は、それこそ、これ以上の遅れは絶対にない、今度こそ本物だと念を押し、全世界に公約した目取りでした。狼少年のウソはそう何回も通用するものではない。最後には、狼に食われてしまう。福田政府と公団にも、ついにその時が来たのです。

いま、三里塚空港計画の根本的再検討を求める声が広くわき起っています。たたかう人民はもとより、技術者、知識人、さらには政府部内にさえも、この声は浸透しています。彼らの開港強行の策謀が一歩進もうとするたびに、廃港を要求する力もまた強く、大きくなっていきます。

なによりも決定的なことは、三里塚反対同盟とそのもとでたたかう陣営の闘魂と戦力が、この勝利によって数倍、数十倍にもふくれ上っているという事実です。あらゆる正義を無視して、再び開港を強行しようとするなら、そのときには、彼らにとって悪夢のような「三月二十六日」がさらに大きな規模で再現されるでしょう。

農民の血を流し、首を絞め、ガス弾、銃弾で人民を殺傷することによって作りあげられて来たこの「空港」が完全な廃港となるまで、われわれは何度でも立ちあがり、大衆の実力で権力の暴力をうちくだいてみせましょう。三里塚空港の命運はすでに尽きました。

反対同盟はいま、呼びかけています。「不毛なコンクリートをはがして、畑にしよう！」

4

三月二十六日の勝利は、「たたかえば、勝てる」という真理を明らかにしました。

全国各地で、原発をはじめとする巨大開発、水俣病、スモン病などの公害、さらには差別を中心とする社会的な差別と抑圧に抗してたたかっている人々の運動にとって、この勝利は、すばらしい貢献をすでしょう。

首切りと失業、賃下げ、合理化に苦しむ労働者を、平然と見捨てて、その犠牲のうえで自らの特権を維持しようとしている労働組合指導部にたいして、この勝利はきびしい糾弾となるでしょう。

いまこそ、全国のたたかう労働者・人民は、三里塚反対同盟の十三年間の不屈の闘争を学び、わがものとして、大団結をかちとろうではありませんか。資本家と権力に屈服し、野合して、たたかう人民に敵対する政党や労働組合の指導部をのりこえ、勝利を手にするまで一歩も退かない戦闘的な統一戦線を、下から、たたかいの現場から、つくりあげ、かためよう。一つになって前進しようではありませんか。

すべての人民の本当の敵は、一握りの資本家階級であり、その利益を代弁する政府です。だからこそ、すべてのたたかいの最後の結論は、資本家の政府を倒し、人民の政府をもたてることに以外にはありません。

三里塚の勝利は、この真理をはっきりと示しています。全人民の皆さん。われわれは訴えます。

団結しよう。

たたかう統一戦線の力で、福田政府を打倒しよう！

一切の資本家政府を打倒しよう！

労働者・農民の政府をもたてよう！

5

福田政府はいま、ブルジョア・ジャーナリズムに命令を下し、「過激派」弾圧の大キャンペーンをくり広げています。新聞もテレビも、忠実にこの命令を実行し、反対同盟や第四インターナショナルをはじめとする諸党派が、少数の凶悪なテロリスト集団であるかのようなイメージを描くために、その紙面を、あらゆる種類のデマとウソで埋めつくしています。

だが、事実に反するデマは、必ずやたたかいによってあばかれていくものです。

われわれはこれまで、テロリズムに反対し、内ゲバ主義に反対し、権力との対決は、人民の支持の下で展開される大衆的実力闘争によらなければならないと主張して来ました。われわれがその一員である第四インターナショナルは、全世界の階級闘争のなかで、どこでもこの立場をつらぬいてたたかってきました。われわれの羅針盤であるマルクス・レーニン・トロツキー主義は、このことをきびしくいましめています。

管制塔を占拠した部隊の戦士達には、きびしい規律が課せられていました。

第一に、職員、ガードマンらに傷を負わせないこと、

第二に、人質をとらないこと、

ウソとデマで塗りかためられた報道を通してさえ、戦士達が細心の注意でこの規律を厳守したことが明らかになるでしょう。

われわれは、権力とその手先たちにたいしては徹底的に対決します。「過激派」と呼ばれることは、この意味ではわれわれの名誉です。

同時にわれわれは、人民の利益を自らの利益とし、そのたたかいの最良の武器たろうとします。この意味でわれわれは、自らを「前衛」と名のります。

6

全人民の皆さん。

開港強行の失敗をおおいかくし、再度の強行開港を意図する「過激派弾圧」にたいし、断固たる反撃を展開しましょう。「騒乱罪・破防法の適用」「新治安立法」「警職法拡大解釈」「銃器使用」等、権力の弾圧エスカレートは、われわれにたいしてだけでなく、すべての人民のたたかいにも向けられていくものであることは、完全に明らかです。

われわれはさらに、すべての戦闘的左翼の活動家諸君、新左翼諸党派にたいして呼びかけます。

三月二十六日の勝利は、戦闘的大衆的実力闘争の路線の正しさを、三度び確証した。たたかう人民の利益を、自らのいかなる党派利害にも従属させず、たたかう部隊相互の完全に平等で真剣な理論闘争を土台としてつくられる統一戦線に依拠するプロレタリア民主主義の路線の正しさもまた、三度び示された。どの路線もとでたたかうときに、権力にたいするもっとも大きい打撃を加えうるのかを、この勝利から学ばなければならない。

一切の内ゲバ主義と、きっぱりと袂別しよう。大衆的実力闘争とプロレタリア民主主義の原則のもとで、戦闘的にたたかおうとするすべての活動家、党派の統一戦線を、政府と公団をさらに追いつめ、とどめをさす連続闘争のほのおのなかで鍛えあげていこう。このたたかいのなかからこそ、ほんとうの革命派が生まれ育っていくのだ。

皆さん。廃港への道は、いまやくっきりと広がっています。時代は、この道にそって言葉く流れています。

未来はたたかう人民によってきりひらかれるのです。歴史はいくたびもその瞬間を目撃してきました。われわれはいま、歴史の新しいページをめくる時点に立っています。

勝利を不動のものに！

この勝利を全国へ！

全国に第二、第三の三里塚を！

第四インターナショナルは、皆さんとともに、最後までたたかいぬきます。

一九七八年三月二十九日

われわれは、ここで、社会党、共産党、労働組合の指導者達に要求します。諸君は「過激派キャンペーン」の積極的な加担者となることを、直ちにやめるべきである。諸君は、十三年にわたる三里塚農民の不屈のたたかいにたいして、なにをしてきたかを、いまこそ反省すべきである、とわれわれはさらに、社会党、共産党のすべての党員諸君に呼びかけます。諸君の指導者達は、人民の利益を裏切っている。彼らを批判し、彼らをのりこえ、三里塚反対同盟とともに、今すぐたちあがろうではないか、と。

三里塚の大地は、ともにたたかおうとするすべての人々に開かれているのだ。

三里塚空港粉砕！第四インターの旗のもと福田打倒、完全廃港へ進撃せよ！

4.27 第四インター中央政治集会

とき　四月二十七日（木）午後五時三十分

ところ　北区公会堂（国電王子駅下車）

十三年の闘いに生き、三月開港阻止に起った三里塚百姓の怒りを聞いてください

三里塚芝山連合空港反対同盟

大衆的実力闘争の勝利だ

管制塔占拠に呼応し、直下の機動隊を撃破

全国の皆様へ
四・二開港阻止総決起集会への声明と訴え

三里塚の闘う百姓は、十三年のいのちをかけて三月開港実力阻止に手をかけてまいりました。横堀要の建設を糧とした全国の心ある国民の皆さんの心温いご支援と現地における勇猛なる戦士諸兄の輝かしい戦闘によって福田政権の三月ゴリ押し開港をものの見事に打ち砕いた。この勝利の気時を全国の皆様とともにわかちあいたいと思います。

どころで、三里塚の百姓十三年の闘魂がきずきあげた横堀要の闘いと空港内および管制塔における戦闘において、きわめて重大な機動隊の暴力が展開されていたのです。

管制塔占拠＋破壊を頂点にした開港阻止決戦の勝利によって、福田政府は完全に顔色を失っている。福田政府が大号令を発し、命運をかけておしすすめてきた「国策」の敗北が生まれる危機をのりきるために、福田は問題を「過激派」対策の不備にすりかえ、ブルジョアジーの本質をむきだしにしてマスコミを手をたずさえて、治安弾圧の強化にのりだしている。

わが同盟は、三里塚反対同盟と共に、日本労働者人民に強く訴える。強行開港の失敗を治安問題にすりかえようとする福田政府を許さず、三里塚空港の廃港という人民の大義を実現する本当の解決にむけ、いまそともにたちあがろう、と。

強行開港を粉砕され、度肝をぬかれた福田政府が、強硬策の検討に入り、開港阻止決戦の敗北を治安弾圧の問題にすりかえるために、福田は問題を「過激派」弾圧へ主張した。農民殺しの自民党農政にあらがえず、ますます農村中心の強行策をとってきた。「三里塚は農民運動ではなく革命運動になった」と治安弾圧を要求し、「あんな奴らは機関銃で一掃射撃すべきだ」というような絶対許せない発言もくりかえされた。それらにたえるように法相稲葉山は、「破防法」適用検討を命じ、配者団の前では死者きめこまかな福田は、関係閣僚会議では「過激派」への治安弾圧の強化の大号令を行ったのである。

二十七日に行われたこの関係閣僚会議をさかいに、福田政府は、大衆的実力闘争に対する政治的敗北を治安弾圧の不備にすりかえ、弾圧強化のキャンペーンを大々的に開始した。

一九五一年のメーデー事件、大須事件以来はじめての大衆的実力闘争に対するピストル使用を積極的に規制する警職法第七条の拡大解釈がある。これは大衆的示威行動に治安警察の本質をむきだしにしピストル携帯と使用を認めるとともに、機動隊の限りをつくす機動隊のピストル携帯と使用を認めるとともに、さらに三里塚地区の三十六の部落小屋を破壊するための特別立法がくわだてられようとしている。皆山要塞化のためには、何と建築基準法の拡大解釈が行われようとしている。十三年の三里塚反対同盟の闘いと全国の三里塚闘争を結び反対同盟農民の私有地にある。私有財産制を守ることを第一の使命とする資本家政府、福田が、反対同盟農民の私有地に対する団結小屋を特別立法で破壊しようとする姿は、腐りつつある資本主義に固有なアルジョアジーのむきだしの暴力そのものである。

福田は、治安弾圧の強化と特別立法に対して、野党の協力をえようとしている。だが、治安弾圧の強化は、部落解放運動、住民闘争などに牙をむき、社会党、総評や共産党も例外でないことは今、明らかである。

福田政権が真に三里塚問題の解決を求めるものであれば、以下の私たちの提案を即時受諾すべきであり、ありましょう。

すなわち、その第一は、無法な中止、機動隊を現地より即時撤退させること。

以上、大暗二百にわたる政府の真意があらわれる時、私たち現地農民の立場と人格は十三年にしてはじめて認められることになるのであります。

これらの闘争実現のための反対同盟は、今後の闘いに総力を投入していくことをここに宣言いたします。

また、政府はこの行の重大局面からたくさんのものを学ばざるとはせず、たびたびたから闘争を安ならば事態はなおいっそう深刻なものとなるのは明白であり、この責任のすべては政府にあることをも明らかにしておかねばなりません。

以上を本年度の全国の皆様への声明と訴えにいたします。

四・二開港阻止総決起集会

激化する治安弾圧に大衆的反撃を

管制塔占拠＋破壊を頂点にした開港阻止決戦の勝利によって、福田政府は完全に顔色を失っている。福田政府が大号令を発し、命運をかけておしすすめてきた「国策」の敗北が生まれる危機をのりきるために、福田は問題を「過激派」弾圧対策の不備にすりかえ、ブルジョアジーの本質をむきだしにしてマスコミと手をたずさえて、治安弾圧の強化にのりだしている。

わが同盟は、三里塚反対同盟と共に、日本労働者人民に強く訴える。強行開港の失敗を治安問題にすりかえようとする福田政府を許さず、三里塚空港の廃港という人民の大義を実現する本当の解決にむけ、いまそともにたちあがろう、と。

強行開港を粉砕され、度肝をぬかれた福田政府が、強硬策の検討に入り、開港阻止決戦の敗北を治安弾圧の問題にすりかえるために、福田は問題を「過激派」弾圧対策の不備にすりかえ、ブルジョアジーの本質をむきだしにしてマスコミと手をたずさえて、治安弾圧の強化にのりだしている。

わが同盟は、三里塚反対同盟と共に、日本労働者人民に強く訴える。強行開港の失敗を治安問題にすりかえようとする福田政府を許さず、三里塚空港の廃港という人民の大義を実現する本当の解決にむけ、いまそともにたちあがろう、と。

強行開港を粉砕され、度肝をぬかれた福田政府が、強硬策の検討に入り、開港阻止決戦の敗北を治安弾圧の問題にすりかえるために、福田は問題を「過激派」弾圧対策の不備にすりかえ、ブルジョアジーの本質をむきだしにしてマスコミと手をたずさえて、治安弾圧の強化にのりだしている。

わが同盟は、三里塚反対同盟と共に、日本労働者人民に強く訴える。強行開港の失敗を治安問題にすりかえようとする福田政府を許さず、三里塚空港の廃港という人民の大義を実現する本当の解決にむけ、いまそともにたちあがろう、と。

強行開港を粉砕され、度肝をぬかれた福田政府が、強硬策の検討に入り、開港阻止決戦の敗北を治安弾圧の問題にすりかえるために、福田は問題を「過激派」弾圧対策の不備にすりかえ、ブルジョアジーの本質をむきだしにしてマスコミと手をたずさえて、治安弾圧の強化にのりだしている。

わが同盟は、三里塚反対同盟と共に、日本労働者人民に強く訴える。強行開港の失敗を治安問題にすりかえようとする福田政府を許さず、三里塚空港の廃港という人民の大義を実現する本当の解決にむけ、いまそともにたちあがろう、と。

強行開港を粉砕され、度肝をぬ

第四インターナショナル政治集会
全国日程

4.27 第四インター中央政治集会
ところ　北区公会堂（国電王子駅下車）
とき　四月二十七日（木）午後五時三十分

4.28 第四インター関西政治集会
ところ　大阪府農林会館（地下鉄谷町四丁目、森の宮下車）
とき　四月二十八日（金）午後五時三十分

4.30 第四インター東北政治集会
ところ　仙台市白島ビル大ホール
とき　四月三十日（日）午後一時

4.30 第四インター九州政治集会
ところ　福岡市労働会館大ホール
とき　四月三十日（日）午後一時